



東京エコビルダーズアワード 2025

東京都 HTT TokyoTokyo

建物の脱炭素化を推進

東京都は中小規模新築建築物の脱炭素化に意欲的な事業者を表彰する「東京エコビルダーズアワード」を2023年度から実施している。3回目となる25年度は部門を再編し、より多角的な切り口で事業者を表彰した。同年11月には都庁でリーディングカンパニー賞受賞者の表彰式を開き、同12月には受賞者の先進的な取り組みを広く周知するイベントを都内で実施した。都はこれらの取り組みを通じて、50年のカーボンニュートラル(温室効果ガス排出量実質ゼロ)実現に向け、環境性能の高い建築物の普及を後押ししていく。



▲受賞者のプレゼンテーションに多くの来場者が耳を傾けた(ブースステージ)

東京都の調査によると、都内の二酸化炭素(CO₂)排出量の約7割は、建物でのエネルギー使用に起因している。これを受け、都は25年4月から「建築物環境報告書制度」を施行。大手ハウスメーカーなどを対象とし、2000平方

▲都はリーディングカンパニー賞受賞者16社を表彰した



リーディングカンパニー賞 部門再編で多角的評価

方々未満の新築建物への断熱・省エネルギー性能の確保、省エネ設備の設置をそれぞれ評価する2部門だったが、多様な観点で光を当てたため、総合部門、分譲賃貸部門、地域ビルダー部門の3部門とした。

また、基準を達成した事業者に向けた従来の「ハイスターダート賞」に加え、基準を大幅に上回る誘導基準を達成した事業者に向けた「ハイスターダートプラス賞」を新たに設けた。複数の賞を受賞した事業者を含め、計37社を選出した。

25年度のアワードには、地域工務店など同制度の対象にはならない事業者からも多くの応募があり、そのうち複数の事業者は同制度への参画を表明している。都環境局気候変動対策部の山口仁中建築物担当課長は「着実に広がりを見せている」と、制度の確実な浸透に自信を見せる。

都は今後も「意欲的な事業者を支援することにも、環境性能の高い住宅の利点を発信していく」(山口課長)と、人々が日々過ごす建物の脱炭素化を推進する考えだ。

主催者挨拶



東京都知事 小池 百合子 氏

太陽光パネルの設置や、断熱・省エネ性能の確保などを大手ハウスメーカーなどに義務付ける全国初の制度を開始し、多くの人に支援制度を活用してもらっています。

太陽光パネルと高い断熱・省エネ性能を備えた

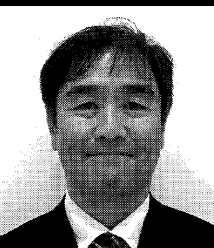
「燃費のいい家」知る機会に

気候変動の影響が深刻化する中、都は50年ゼロエミッション(排出ゼロ)東京の実現に向けた取り組みを加速している。4月からは新築住宅への太

「燃費のいい家」は、経済的かつ快適なだけでなく、停電時の安全・安心にもつながります。この「燃費のいい家」の普及に向けて、さまざまな

※12月11日受賞イベント当日のビデオメッセージより

リーディングカンパニー賞 受賞者



旭化成ホームズ

(千代田区)

【総合部門】
太陽光・蓄電池の高普及と高断熱技術の推進

住宅事業マーケティング本部 戸建住宅事業推進部 小松建人 氏

3年連続の受賞を果たし「非常にうれしい。現場の励みになる」。ロングライフを謳う「ヘーベルハウス」を展開し、新技術による性能向上に日々取り組んできた。「これがユーザーの評価にもつながっている。サッシ一つにもさまざまな工夫が施されている。樹脂だけでは耐久性に問題があるため、アルミ樹脂複合サッシを採用し、耐久性と断熱性の両立を図った。」「快適と満足を感じてほしい」と、長く安心して生活できる環境を提供する。



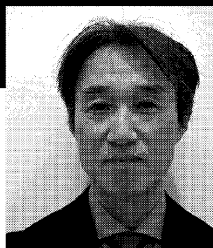
一条工務店

(江東区)

【総合部門】
太陽光・蓄電池の低コスト化と
防災住宅の展開

東京営業所 所長 田村悟志 氏

戸建のリーディングカンパニーとして、3年連続で受賞できたことは「取り組んできたことが認められ、非常にうれしい」。業界でも断熱性能等級の高い住宅を手がけることで知られ、最高の断熱等級7は「50%以上達成できている」。太陽光発電システムなどの普及にも力を入れ、「住宅の創エネ化」を推進する。「断熱だけではなく、それにプラスして太陽光発電システムと蓄電池の取り組みが評価された」と喜びもひとしおだ。



スウェーデンハウス

(世田谷区)

【総合部門】
高断熱と日射制御による
省エネ住宅の標準化

生産技術部 技術開発グループ 担当部長 織田茂 氏

1984年の創業時から木製三層ガラスを標準とし、高気密・高断熱・計画換気を基本性能とした住宅を提供してきた。「3年連続で受賞でき、非常にうれしい」。性能については実験を続け効果をしっかりと確認し提案すること重視しており、「これが説得力につながる」と自信を見せる。ハードだけではなく、「アフターも含めソフト面の取り組みも大事だ」とし、今後も住む人の目線に立った住まいを創り上げていく。



真柄工務店

(西東京市)

【総合部門】
高断熱住宅の全棟実現と
性能情報の積極発信

代表取締役 眞柄大介 氏

自然素材と高気密・高断熱の性能を生かした「本物の家づくり」を手がける。今回が初の受賞だが、「性能や品質には自信があった」。外皮平均熱貫流率(UA値)や住み心地の良さにつながる隙間相当面積(C値)で高水準の住宅を提供するが、「数字だけを追いかけたいわけではない」。デザインや設計も含めた総合力を重視する。「住宅は単なるハコではない。お客さまが喜んでくれる住まいにすることが大事」と力を込める。



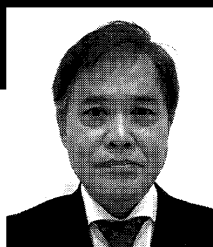
三井不動産レジデンシャル

(中央区)

【総合部門】
建設から居住まで
一貫した脱炭素施策の推進

地域開発事業部 部長 若松雅人 氏

「Life-styling×経年優化」をコンセプトに掲げ、分譲住宅ではネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)化を推進し、省エネ設備の設置などにも力を入れる。受賞は3年連続で「安全・安心な街や持続可能な社会づくり、SDGsなどに貢献していきたい。住戸のCO₂排出量や削減量を見える化しポイントを付与する「くらしのサス活アプリ」サービスも提供。「お客さまと一緒にCO₂削減に取り組んでいきたい」と意気込む。



ヤマト住建

(神戸市中央区)

【総合部門】
高性能住宅と
EV・空気環境配慮の総合提案

執行役員 入口泰尚 氏

以前よりZEH基準以上の断熱・気密性能が高い住宅を手がけてきた。受賞は3回目、「何か特別のことをしたわけではない。普段からのカーボンニュートラルにつながる取り組みが評価されてうれしい」。断熱等級6.7レベルの住宅を普及させ、「断熱では業界の一步先を目指し取り組んでいる」。太陽光発電についても「設置するのは当たり前」の時代に突入。貯めて使うことが重要だ。トータルで省エネを提案していく」と力を込める。



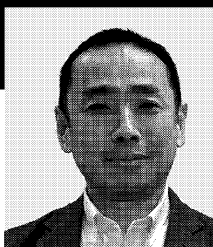
小田急不動産

(渋谷区)

【分譲・賃貸部門】
分譲・賃貸における
ZEH普及と性能の見える化

住宅事業本部 開発企画部 戸建企画グループ グループリーダー 本橋理 氏

「環境共生住宅」を提供し、24年度には新築分譲戸建やマンションでZEH割合100%を達成した。「まずは社員がその環境価値を理解していなければならぬ」と社員教育にも力を入れ、「お客さまのメリットをしっかりと伝えている」。CLRプロジェクトでは「住宅から生み出されたクリーンエネルギーを、J-クレジット制度を利用して特急ロマンスカーなどを走らせるのに活用」しており、地域との共生にもつながる取り組みも展開する。



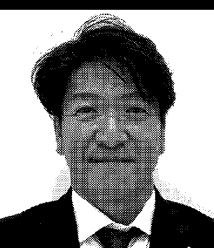
参創ハウテック

(文京区)

【分譲・賃貸部門】
賃貸住宅での
再生エネ有効活用と地域連携

専務取締役 尾崎誠一 氏

「断熱性能・省エネ性能に特化した住宅建築に取り組んできた」。10年以上前に外断熱工法からダブル断熱工法に切り替えて、気密を担保した住宅を手がけてきた。戸建の場合は太陽光発電のエネルギーを世帯内消費に活用しやすいが、集合住宅は各世帯に割り振るのが難しい。「太陽光発電の電気を上手に活用できる低圧一括受電を採用した集合住宅が評価され、大変光栄だ」とし、今後も断熱・省エネ性能の向上と省エネ設備の活用を力に注ぐ。



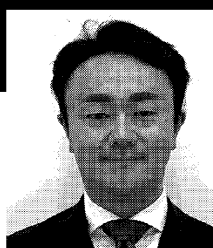
セイズ

(葛飾区)

【分譲・賃貸部門】
都市部住宅での
太陽光標準化と行政連携

代表取締役 及川達也 氏

分譲住宅で全棟ZEH基準をクリアし、高性能な断熱材や気密構造によって25年の省エネ新基準を上回る性能を実現した。3年連続の受賞で「若いスタッフもよく頑張ってくれた」。20坪の狭小地などでも環境性能の高い住宅を建てる。分譲住宅のすべてに太陽光発電を標準整備するなど光熱費の削減効果も高い。「2分の1になるといっても最初は信じてもらえないが、実際に皆が喜んでくれる」と、今後も地域密着の家づくりを続ける。



パナソニックホームズ

(大阪府豊中市)

【分譲・賃貸部門】
組織的なZEH推進体制による
省エネ住宅展開

営業戦略部 特建推進課 北條賢宏 氏

戸建・集合住宅でZEH基準を超える高断熱・高省エネ仕様を推進し、「東京ゼロエミ住宅」基準を満たす住まいを積極的に展開する。「需要の多い東京都内で対応する建物を増やせた。2年連続の受賞であり、継続的な取り組みが評価された」と喜ぶ。都の助成金などについても「営業担当者がしっかりと勉強し、お客さまに提案できた」という。ユーザーの環境に対する意識が高まり、「今後もゼロエミ住宅を訴求していく」と意気込む。



ミサワホーム

(新宿区)

【分譲・賃貸部門】
高断熱・高効率設備による
GX志向住宅の展開

商品・技術開発本部 技術部 技術管理課 課長 城所創 氏

断熱・省エネ性能を高めるさまざまな独自技術を持ち、2年連続の受賞となった。「木質パネル接着工法」は合板で断熱材を挟んだもので「施工が楽なことポイントだ」。建物に合わせて24時間換気を行う「フロアセントラル換気システム」は空気清浄機でも使用されている高性能なHEPAフィルターを搭載する。ミサワホームは50年以上前から南極の昭和基地の建物建設に関わり、「培ってきた断熱の技術やノウハウがある」と胸を張る。



アイケーホーム

(世田谷区)

【地域ビルダー部門】
都市型敷地での
省エネ設計と地域啓発

代表取締役 飯島朝和 氏

東京ゼロエミ住宅、またはZEH基準以上をクリアし、断熱等級6、UA値0.46以下を標準とするなど高い基準を満たす。都市部の狭小地や密集地でも快適な住環境と高いエネルギー効率を両立できる設計にこだわり、「太陽光発電システムもいかに載せるかを工夫している」。設計力、施工力を誇り、「性能を優先したからといって、何かを諦める必要はない。手間も時間もかかるが自由設計が強みだ」と、今後も顧客の要望に応えていく。



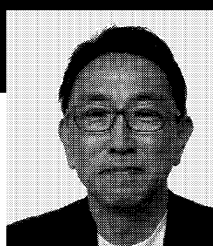
創建舎

(大田区)

【地域ビルダー部門】
国産材活用と社員大工育成による
住宅供給

代表取締役 吉田薫 氏

東京ゼロエミ水準Aを期間中の物件全棟で取得し、9割で太陽光・蓄電池を導入するなど安心して住み継がれる持続可能な木造住宅を提供する。「強みである設計と社員大工の連携の取り組みが評価された」。大工の高い技術があってこそ設計も生きる。都内の厳しい建築制限下で環境性能を高めた住宅を作るのは難しく、高い設計力とそれを形にする大工の力が不可欠だ。「職人は格好良いとっと広まってほしい」と、受賞の効果を期待する。



大黒屋

(東村山市)

【地域ビルダー部門】
在来工法継承と
高性能リノベーション推進

代表取締役 袖野伸宏 氏

一生のパートナーとして家を作るお客さまとの関係性を大切に。「若手大工の育成と在来工法の継承、高性能リノベーションによる空き家活用が評価され、これまでの取り組みが正しかったと確信が持てた」。耐震などの建物の長寿命化では耐震等級3・制震テープを標準とし、災害時には家自体が避難場所として機能するように太陽光と蓄電池の提案にも力を入れる。地域貢献なども含め、喜ばれる家づくりに取り組んでいく。



中島工務店

(青梅市)

【地域ビルダー部門】
地域特性に応じた
高断熱住宅の普及

代表取締役 中島慶貞 氏

西多摩エリアの地域特性に合わせた家づくりに強みを持つ。中島代表取締役は同エリア内の青梅市が出身地。「23区内と比べ夏の暑さも冬の寒さも厳しい」という地域の特徴を熟知している。新築時に断熱性の高い建物を提案しているほか、リフォーム時の省エネ化にも対応する。24年度から2回目の挑戦でリーディングカンパニー賞を受賞した。「青梅市に恩返しできるように思う」と笑顔を見せ、今後も地元で高性能住宅を広げていく。



八幡

(青梅市)

【地域ビルダー部門】
太陽光・蓄電池高搭載と
情報発信の継続

注文住宅営業部 部長 平野透 氏

業界トップクラスの高断熱パネルや高断熱サッシを採用し、断熱等級6を標準化している。熱交換換気システムなども採用し、「住み心地の良さを感じてほしい」と自信を見せる。受賞は3年連続。理念である「これから家を作る全ての方に真に快適な家を知ってもらう」ため、SNSなどでも積極的に情報発信する。「地域の工務店として丁寧につくることは大事。建てた家ごとに性能のパラつきがあらはダメ。ちゃんとした家を届けたい」と意気込む。